
第 29 回 揖保川流域委員会 議事録 (概要)

日 時：平成 25 年 6 月 18 日 (火) 15:00 ~ 17:00

場 所：たつの市青少年館 ホール

出席者：委員 12 名、河川管理者 13 名、自治体関係者 13 名、傍聴者 3 名)

1. 今回の議題について

第 28 回流域委員会で公表された「揖保川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)」に対する委員意見や住民意見及び意見への対応について報告された。これを踏まえた「揖保川水系河川整備計画(案)(国管理区間)」の内容について説明された。

議題	揖保川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)への意見と対応について 揖保川水系河川整備計画(案)(国管理区間)について
----	--

2. 揖保川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)への意見と対応について

【説明概要】

揖保川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)に対する意見及び意見への対応として、河川管理者から以下の事項が説明された。

住民意見聴取の方法及び実施結果

揖保川水系河川整備計画(原案)に対する委員意見及び意見への対応

揖保川水系河川整備計画(原案)に対して住民説明会でいただいた意見及び意見への対応

揖保川水系河川整備計画(原案)に対して住民説明会以外でいただいた意見及び意見への対応

【意見及び質疑応答(揖保川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)への意見と対応について)】

委員からの主な意見と河川管理者からの回答は以下のとおりである。

揖保川について十分に理解し、河川管理者、地元の方々、皆協力して携わっていただきたい。

長いスパンでの揖保川の姿をどうしていくか。難しい問題もたくさん残っている。フォローアップの方法に注目していきたい。

3. 揖保川水系河川整備計画(案)(国管理区間)について

【説明概要】

揖保川水系河川整備計画(案)(国管理区間)について、河川管理者から以下の事項が説明された。

河川整備計画(案)のうち、委員及び住民からいただいた意見を反映した箇所

【意見及び質疑応答(揖保川水系河川整備計画(案)(国管理区間)について)】

委員からの主な意見と河川管理者からの回答は以下のとおりである。

整備計画(案)の書きぶりは問題ないが、具体的にどう実行していくかが課題である。フォローアップをどうするか。

(河川管理者による回答)

畳堤に代表される防災意識の高さなど、その思想は整備計画の中でも大事にしたい。その思想が風化しないようにフォローアップなどでやっていくしかないと考えている。

山の管理者と川の管理者が協働していかないと解決しない問題も出てくると思う。対話は絶やさないようにしていただきたい。

整備計画(案)はよくまとめられているのだが、これまで議論してきた具体的な整備箇所の話が省略され、概論的なものになっていないか。

(河川管理者による回答)

具体の整備箇所は p.69 以降に記載している。植物群落等を表示して、整備の際に生育環境に配慮するという記述を入れながら、イメージを示させていただいている。

景観面では、歴史的なものの保全等を文言だけで表現している。具体の話については、p.69 以降で基本的な考えを整理していくということか。

整備計画はおおむね 30 年の目標ということで、工事実施段階では、もっと具体的な説明をすることを、これまでに河川管理者よりご説明いただいている。

(河川管理者による回答)

整備計画は、これまでの委員会で個々個別に具体的に説明させていただいた、その内容を十分反映した形でまとめている。今までの議論を踏まえて作成した案である。

今後の具体的な実施方法が一番心配である。委員会で出た意見を整理した資料を計画の中に入れて、それをチェックできる形にしていただけたらと思う。

(河川管理者による回答)

今後、具体的な整備計画の見直しを含めて、進捗点検しながら進めていく。フォローアップとして、加古川の流域懇談会が果たしている機能など、参考にしながら進めていきたい。

生態系がなくなってしまってからでは遅い。今まで出た意見のポイントを押さえたページがなければ、我々が申し上げた意見が今後の 30 年間に反映されないのではないか。

整備計画の中に書きすぎることにも懸念がある。流域委員会の議事録の要約は残っていると思うので、それが今後生きてくるのではないか。

(河川管理者による回答)

流域委員会の資料と議事録を整理したものは保存・保管しており、今後の計画・工事にも反映してやっていく。

フォローアップの段階で、若い方にコミットしてもらうようなこともお願いできるかもしれない。そういうことを含めて、30 年間の連続性を確保していくのではないか。

まちづくりと一体化した川の整備ということをしっかりまとめていただけたが、誰が責任を持

って実行していくのが心配である。他河川の事例を参考に、具体的方法を書けないか。

（河川管理者による回答）

整備計画の中に書きすぎると、自然公物である河川の変化に対応できない。住民や学識経験者等に参画していただきながらモニタリングをしっかりとやる。大きな考えを頭に入れて、工事では個別に対応する、というのが良いのではないかと考えている。

昭和 51 年 9 月洪水というのは、宍粟市で山崩れがあった、あの時の洪水か。

（河川管理者による回答）

その通りである。

6～8 年前に、今後 30 年の予算は 600 億円程度を組んでいる、という話があったが、年間 20 億円程度の予算が揖保川に投入されているのか。

（河川管理者による回答）

年々によって事情が変化するので、予算の割り振りはでこぼこする。整備計画は、意見をいただきながら河川管理者としての目標をまとめたものであって、投資規模は考慮していない。

整備に必要な予算を要求する心構えは持っているということであろう。予算状況で何年か遅れることもあるのは、やむを得ないかと思う。

整備計画（案）p20 の「アイヌハンミュウ」は「アイヌハンミョウ」の間違いなので修正すること。また、p34 の河口干潟の箇所は植物個体と植物群落に混乱があるので修正をお願いしたい。具体的な生き物を知ることは、それぞれの関わりを知ることである。

種名と群落・個体については修正をお願いしたい。

外来種が侵入すると対策は難しいので、早めの対処が必要である。住民と連携して啓発を行い、必要に応じて駆除するという理解で良いか。

（河川管理者による回答）

出張所がパトロールをしており、外来種を発見した場合は駆除している。住民との連携については、今後手当てをしていかないといけない。

外来種の問題は、河川管理者だけでは対応できないと思う。もう少し大きな組織で、あるいは住民を巻き込んでやっていかないといけないのか、非常に難しい。

京都で、オオサンショウオの日本固有種が壊滅状態にあるときいている。揖保川の漁協の活動をバックアップするなど、地域を巻き込んで進めることができるとよい。

外来種は大きな課題である。ぜひ、専門家・住民と連携しながら、取り組んで欲しい。フォローアップが重要な機能を示すと思う。

フォローアップに関して、関係自治体との連携の現状、今後の目標に関わる記述があった方がよい。誰が関係者なのか、ということを書けると良い。

今後関係自治体の意見も反映されていくので、そこで関係自治体が入ってくると理解すれば良いと思う。整備計画（案）としての書きぶりは、これでベストではないか。

4. その他

【説明概要】

「揖保川水系河川整備計画（国管理区間）」のフォローアップについて、河川管理者より以下の事項が説明された。

河川整備計画のフォローアップに関する今後の予定

【意見及び質疑応答（その他）】

これについて委員より意見は特に出されなかった。

5. 傍聴者からの意見

傍聴者の発言はなし。

6. 今後の予定

河川管理者より、今委員会をもって揖保川流域委員会の審議が終了したこと及び今後兵庫県知事に意見照会を行うことが報告された。

以 上